

日蓮と法華の名宝

～華ひらく京都町衆文化～

「門連だより」元編集長 生駒雅幸
展覧会事務局

日蓮聖人 門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181

平成22年2月16日
第41号



平成二十一年十一月二十三日午後六時、最後の来場者を見送り「日蓮と法華の名宝」展が幕を降ろした。会場となった特別展示館は静けさを取り戻し、ライトアップの中、レンガ色の美しい姿で佇んでいる。十月十日の開会の日にはまだ色づきはじめたばかりの紅葉が、日を追って、広く深く京都の町を染めていったように、拝観された人々の心が安らぎと感動に彩られた四十五日間であった。

期間中多くの方々に日蓮聖人とその門弟ゆかりの御霊宝、法華信仰と京都町衆文化の精神にふれて頂いた本展の総入場者数は、当初目標の七五〇〇〇人を大きく上回り八八一八七人を数えた。

全ての来場者が帰られた後、小松淨慎日蓮聖人門下連合会理事長導師のもと大本山法華経寺新井日湛貫首猊下をはじめ関係者約三〇

名が参席し、本館中央室において「日蓮と法華の名宝」展円成奉告法要が執り行われた。静謐な館内の隅々にまで読経の声が広がる。四十五日間に亘り多くの方が訪れたこの博物館が、今は結縁の道場としての荘厳さを具えたようにも感じられる。

この展覧会は、今から四年前の平成十八年十一月の京都における門下連合会理事会でその企画が示されたスタートしたが、当初は様々な課題を抱えて必ずしも順調なすべり出しではなかった。しかし日蓮聖人門下連合会、京都日蓮聖人門下連合会、十六本山会などが幾度となく前向きな検討を重ねた結果、広く一般社会に向けた本展遂行は記念の年にふさわしく意義深きこととの考えに至り、異体同心にして進捗を見せたのは平成十九年の夏頃からであった。

実際の準備を進める中で大きなポイントは二点。一つは本展のコンセプトに基づく出展構成。もう一つは広報である。出展構成については主として京都国立博物館の本展担当学芸員が企画を行い、それについて門連側と協議しながら内容を作成していった。しかし当然のことながら出展構成が作成されても所蔵者の了解を頂かなければ出展の確定には至らない。

大切な宝物を門外に遷すということは所蔵者にとっては勿論

依頼する主催者にとっても大きな覚悟を必要とするが、立正安国論奏進七五〇年という意義をご理解いただき所蔵の方々の快諾を頂いたことは誠にありがた

いことであった。そのようにして全ての宝物が展示された会場はまさに法華の道場であり、初めて会場を訪れた時の感動は本

次に広報であるが我々門下にとつてはこれを一つの大きな布教の機会と捉え、出来るだけ広く一般社会に伝えることを目指した。直接的な布教ではないが、「日蓮聖人」「法華信仰」「京都町衆文化」といったキーワードが未聞の人々の目にとまり記憶に残る事、そして来場した方々が展覧会を機縁としてその内容を深く理解していただくことが重要であると考え京都、大阪をはじめとした近畿圏だけでなく東京の主要駅や空港、全国の郵便局など、またテレビ、ラジオ等を含め様々な広報を行った。

こうして日蓮聖人門下連合会各団体、京都十六本山が歩を共に進め本展覧会の円成となったわけだが、多くの方々が本展の

展覧会を通じては、博物館に門連事務局より二名が常駐し美術的、学術的内容以外の来場者の様々な質問に対応した。その中には宗教的な疑問、質問ばかりでなく自身の信仰に疑問を持つ不安の中で僧侶と話がしたいという方々も多くなり、一般の方々にとつては博物館という公共の場で気軽に話が出来るというメリットもあつたように感じる。

これについては博物館側からも「これだけの人数が入った展覧会としては、過去の例と比較して学芸員に回ってくる質問

が驚くほど少なかった」とその対応に感謝されている。いずれにしてもこうした催しは、法事や葬儀などの宗教行事とは異なる環境の中で宗教とふれあうことが出来る貴重な機会であり、宗教者の立場からするとこれからの布教の一つの形として捉えることもできよう。



平成十五年初頭に東京国立博物館において開催された「大日蓮展」、そして今般京都国立博物館に於いて円成した「日蓮と法華の名宝」展。この二つの展覧会が物語ることは、伝統教団はただ宗教団体としてあるだけではなく文化の継承者として大きな役割を担っているということ。そしてその文化を「目で見る」「心で感じる」ことを求める人が多くいるということの二点である。

時には時代の荒波に翻弄されてきた信仰とそれに支えられてきた仏教文化ではあるが、現在では普遍的な価値を有するものであり様々な形で次代へと伝えていかなければならない大切なものである。

大聖人の意を体された日像上人が帝都弘通の大きな一歩を標された京都。その地に於いて円成した「日蓮と法華の名宝」展は、今を生きる人々に一筋の光明となり四海帰妙への大きな道標になり得たと感じる。そしてそうなり得たのは日蓮聖人門下が異体同心にして本展円成を目指したからであろう。

願わくば門下連合会であるからこそ出来る様々な形での布教活動が、日本のみならず世界各地で展開されることを期待するものである。

「日蓮聖人門下連合会」が本年発足五十年を迎える。宗派は違えども、日蓮大聖人を宗祖と仰ぎ、南無妙法蓮華経の御題目を唱える我等。一天四海皆帰妙法の祖願成就のため、更なる結束を果たさねばならない。

◆「日蓮聖人門下連合会」が本年発足五十年を迎える。宗派は違えども、日蓮大聖人を宗祖と仰ぎ、南無妙法蓮華経の御題目を唱える我等。一天四海皆帰妙法の祖願成就のため、更なる結束を果たさねばならない。

◆古代ギリシャより続く「昔は良かった」との懐古思想。紀元前から少くも悪くなっているならば現代は如何なる時代なのか？

◆民主党への政権交代。新政権への多くの国民の希望と期待の現れであったが、実際の施策と変わらない政治家の姿勢。どこまで政治不信は進むのか？

◆世界的な金融危機はまた続く。紛争と内戦は止まらない。環境問題への有効な解決策は見えてこない。慢性的な不安と恐怖が人々を支配する。

◆世紀末のノストラダムスに続いて、二〇二二年のマヤ文明の世界滅亡の流行。神の元の終末論では、世界の終わりの時に、信じる者のみの救済を説く。世界の滅亡は、神を信じる人々にとっては待ち遠しいものなのか？

◆仏教の説く末法思想とは、世界の終わりではない。末法とはお釈迦様の滅後より二千年から始まり、現代へ、そして未来永劫続く時代。その時代には、正しい仏の教えさえも廢れること。

◆その末法であるからこそ、宗祖は、正しい仏の教えである法華経へと、南無妙法蓮華経へと人々を導かねばならないと言われた。混迷の時代だからこそ、今を生きる人々への「未来は良くなる」との希望の灯りを示さねばならない。

◆「日蓮聖人門下連合会」が本年発足五十年を迎える。宗派は違えども、日蓮大聖人を宗祖と仰ぎ、南無妙法蓮華経の御題目を唱える我等。一天四海皆帰妙法の祖願成就のため、更なる結束を果たさねばならない。

◆「日蓮聖人門下連合会」が本年発足五十年を迎える。宗派は違えども、日蓮大聖人を宗祖と仰ぎ、南無妙法蓮華経の御題目を唱える我等。一天四海皆帰妙法の祖願成就のため、更なる結束を果たさねばならない。

從地ゆじゆつ

◆「日蓮聖人門下連合会」が本年発足五十年を迎える。宗派は違えども、日蓮大聖人を宗祖と仰ぎ、南無妙法蓮華経の御題目を唱える我等。一天四海皆帰妙法の祖願成就のため、更なる結束を果たさねばならない。

(義)

《リレー提言⑧》門連の歩みと次代への発信

半世紀を迎える日蓮聖人門下連合会



国柱会講師
(元門連常任理事)

大橋邦正

門下連合会結末の経過

日蓮聖人門下連合会が結成されて、近く五〇年の節目を迎える。ご門下の大同団結を目指し、各派連合して精進をかさねたか

(旧暦七月十六日第一国諫の聖日)東京神田の共立講堂において『立正安国論』が、日蓮聖人門下各派共催という画期的な共同連帯の姿をもって、満堂にあふれるご門下の聖祖讃仰の志を結集、大会は盛儀裡にご報恩の万々に擬し奉った。

この感をさめやらぬ同夜、門下統合の気運のおもむくところ、参加各派の首脳者による懇談の場もたれ、談論おのずからご門下大同団結をめざす意見の一致を見、この大会を機に各派交流連絡の組織を常設することとなった。すなわち門下連合会のご誕生したのである。

門下懇話会から門下連合会

この時を重視して、世にあまた存在する聖祖ご門下が、ここに大同団結し、「立正安国論」の意義をひろく世に顕彰する大会を、盛大に開催し、以てご報恩の万々に資するべきであると、ご門下各派に提唱されたのは国柱会会長田中香浦先生であった。

翌昭和三十五年は、日蓮聖人伊豆法難七〇〇年の記念の年にあたるところから、再びご門下共同して聖祖ご法難の意義を世に顕彰すべく、門下懇話会の共同事業としてご霊蹟伊東を舞台に、伊豆法難七〇〇年を顕彰する対外行事に取り組んだ。

田中先生は、まずごときの日蓮宗山田日真管長を訪ね、誠心誠意の提唱に深甚なる共感をえられて、さらに京都の各派本山を歴訪し、各派の誠意なる賛同をえられたのである。

そのためにご門下連帯の組織の充実と拡大は、最要急務であった。この年の二月八日に開催の日蓮聖人門下懇話会において、もはや懇話会の域を超え、連帯組織の発展への機が熟したとして、規約をはじめ諸制を整備し、懇話会を発展解消して、その名

年記念大法要」が、大導師・日蓮宗管長山田日真師、副導師・各派教団代表により厳修された。一方篠見の祖岩ご霊蹟法華宗陣門流蓮着寺では、陣門流管長山岸日勢師大導師のもとに門連各派代表が副導師をつとめ、ご法難七〇〇年記念の大法要が厳修され、別して伊東市西小学校講堂と蓮着寺にては記念講演会と「まないた岩」聖史劇等が上演されるなど、この記念すべき聖なる一日を昼夜分かつた展開した門連共同の諸行事は、いずれも多大な成果をあげて成満した。聖祖ご法難を偲び奉る意義まことに深く、各派連帯の意識はいやが上にも高まったのであった。

連合の誓い新たに結成奉告式

昭和三十八年、門連各派交流のふかまるなか、門下連合の意義いよいよ熟し来たつたとし、連合の気運を伸展せしめるために、規約を改正して新たな組織化を図ることとなった。

- 一、祖廟護持の組織強化
- 二、教育事業の提携
- 三、布教の連合強化
- 四、懇談会、研究会、講演会等の開催
- 五、各種出版物の刊行
- 六、海外布教の提携及び交流
- 七、対外的各種の運動
- 八、その他

が明示され、会の目的を明確に定義づけ、ご門下各派が連帯共同して異体同心の実践に、大いなる意欲をもやして結束をめざしたのである。

かくして門下連合会としてとりむ初の実業が、日蓮聖人伊豆法難七〇〇年の聖紀にあたり、ご門下一体となって記念行事を奉仕し、聖祖の威徳を万代に高揚するとともに、宗門の高風を現代社会に宣揚するべく、伊東霊蹟道場における対外伝道の好機と捉え、同年五月十二日のご聖日を期して、伊東の日蓮宗仏現寺において「伊東法難七〇〇

要旨は次の通りである。伏して惟みるに教風の宣揚は門下僧俗の一致結束に存し、門下僧俗の一致結束は一に祖廟に結集し奉るに在り。(中略)慶讃疏に三願を掲げ、大衆同賛の下に盟つて曰く「曰く拳宗一致祖廟中心の宗是を興起して一宗崇敬の標的を確立せん。曰く、拳宗一致、弘通中心の宗是を充実にして正法宣揚の大旗を輝かさん。曰く拳宗一致、宗門の経綸を整齊して永く人法の睽離を絶たん」と。この三願は直ちに是れ、今日我等の誓願に非ずして何ぞや。現に立正の勅額は燦として廟頭に輝く。豈に協同結束、祖廟中心の宗是を興起し、正法を宣揚し、経綸を整齊せざる可けんや。(中略)幸いにして時運の趣く所、道念の興起する所、近年頃に祖廟に結集し、門下結集して立正安国の教風を宣揚せんと動きあり。その議茲に熟し、門下十教団を打つて一丸となし、「日蓮聖人門下連合会」の結成に至る。その教団の名を顕本法華宗、本門法華宗、日蓮宗、日蓮本宗、法華宗本門流、本門仏立宗、法華宗陣門流、法華宗真門流、国柱会、日本山妙法寺という。(下略)仰ぎ願わくは宗祖大聖人の尊霊、哀愍納受して冥鑿加被を垂れ、この結束をして金剛不壊ならしめ給わんことを。昭和三十八年十一月二十八日日蓮聖人門下連合会理事長金子辨浄敬白

門下連合会発足以来、今日に至るまで共同して実践してきた数多くの事業は、門連という共同体であったればこそ実現できた業績であった。今回は紙面の都合上門下連合会誕生の経過に限られてしまったが、機会があれば本命の、ご門下連帯して実践し、実績を挙げた門下連合の正法護持、教風宣揚の歴史を記録に掲げたいと思っている。

時我及衆僧 俱出靈鷲山

団参のご用命は 大陸旅遊

インド・ネパールはもちろん中国シルクロード・スリランカ・ミャンマー・ラオス・ベトナム・ブータン・アンコール遺跡等へのご旅行手配もおまかせ下さい。

観光庁長官登録旅行業第1399号/日本旅行業協会正会員

株式会社 大陸旅遊

Tairiku Tours & Leisure co., LTD. TEL 03-3376-2511 FAX 03-3376-5280 http://www.tairikyoyou.co.jp mail: tlc@tairikyoyou.co.jp

●東京本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-5-6 第2ダイヤモンドビル2階

平成三十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



(平成二十一年二月現在)

日蓮宗宗務院

宗務総長	渡邊照敏	財務部長	米田宣雄
伝道局長	関谷泰教	宗務総長室長	渡邊義生
総務局長	駒野教源	現代宗教学研究員	三原正資
伝道部長	古河良皓	参	与 渡邊一之
教務部長	塩崎望巳	参	与 吉田海心
総務部長	梶山寛潮	日蓮宗新聞社長	草ヶ谷秀人

〒146-8544 東京都大田区池上一一三二一五
電話 〇三(三七五)七七八一
FAX 〇三(三七五)七七八六

法華宗(本門流)宗務院

管 長	石田日信
宗務総長	二瓶海照
庶務部長	佐藤義賢
財務部長	久永晃顕
布教部長	斎藤舜貽
教務部長	金井孝顕
教学部長	松本義仙

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二一九一
電話 〇三(五六一四)三〇五五(代)
FAX 〇三(五六一四)三〇五六

顕本法華宗宗務院

管 長	中村日玄
宗務総長	藤崎広学
宗務次長	朝倉俊幸
財務部長	藤崎行学
教務部長	早川義正
布教部長	吉永康成
庶務部長	阿曾久安
社会部長	飯澤道安

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九)七二七一
FAX 〇七五(七九)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長	椿澤日壽
宗務総長	佐古弘文
総務部長	門谷光瑞
教学部長	布施義高
教化部長	佐古大弦
財務部長	金原孝宜
宗務参事	今井満良

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五一三五一六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三三七七)〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講 有	小山日誠
講 尊	梶本日裔
講 尊	野崎日丞
宗務総長	佐藤日鳳
宗務副総長	梅田日芳
宗務副総長	伊藤隆之

〒602-8377 京都市上京区御通一条上多東野町二〇番地
電話 〇七五(四六一)一五六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長	嘉儀日有
宗務総長	原光承
総務部長	長崎秀要
財務部長	原田智光
教務部長	原光明

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上元法皇町四四八
電話 〇七五(七七)三三九〇
FAX 〇七五(七七)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管 長	田中日生
宗務総長	寺田完英
総務部長	堀智善
教学部長	堀内浩祥
教化部長	木村完学
財務部長	安立修源
社会部長	上田英泰
主 事	山口英吾
主 事	笹木研吾
主 事	永岡悠希

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上元紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四)五七六一
FAX 〇七五(四四)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長	松下日肆
宗務総長	藤井日靖
総務部長	吉村日彦
宗務部長	増田隆雄
財務部長	土畑信教
教務部長	音羽隆全
庶務部長	山田岳隆

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五)三三二七
FAX 〇七五(四五)三五九七

宗教法人 国柱会

賽 主	田中壮谷
理事長代務	田中勇一郎
門連常任理事	本間直暉
門連理事	仲南良夫
門連理事	石見哲三
門連理事	森山真治
編集委員	的場春奈
編集委員	
編集委員	

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一一九一八
電話 〇三(三六五六)七二二(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

京都日蓮聖人門下連合会

会 長	岡本日旦
副会長	頂岳日選
理事長	吉本宣文
副理事長	藤井照源

京門連事務局
〒604-8091 京都市中京区寺町通御池下ル下本能寺前町五二二
大本山本能寺内
電話 〇七五(二三)五三三五
FAX 〇七五(二二)二八三八

日本山妙法寺大僧伽

首 座	吉田行典
責任役員	酒井天信
同	今井行康
同	池田行朗
同	二宮和嘉
同	木津博充
同	川岸行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町八一七
電話 〇三(三四六)九三六三
FAX 〇三(三四六)九三六七

日蓮宗総本山
身延山久遠寺

法主 内野 日総
総務 井上 瑞雄

〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六(六二)一〇一一
FAX 〇五五六(六二)一〇九四

法華宗(陣門流)総本山
本成寺

貫首 椿澤 日壽
執事 鈴木 顯正
執事 栗田 孝之
執事 荒川 正文
執事 近藤 義昭
執事 五十嵐 昭

〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一二〇
電話 〇二五六(三三)〇〇〇八

本門佛立宗本山
宥清寺

住持 小山 日誠
事務局長 伊藤 隆之
事務局長 中西 清乘

〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ノ鼻町一〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

日興上人御聖廟
日蓮宗本山
富士山法華本門寺根源

執事 井出 教道
参与 井野上 正文
参与 藤先 博明

〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五九)〇三〇三

日蓮門下お題目初唱之霊場
日蓮宗本山東身延
藻原寺

貫首 持田 日勇
総務 増田 寶泉
執事 富永 一道
役員一同

〒297-0026 千葉県茂原市茂原一―二〇一
電話 〇四七五(三三)三二五三
FAX 〇四七五(三三)一七三三

日蓮宗大本山
池上本門寺

貫首 酒井 日慈
執事 野坂 法雄
役員一同

〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五)一三三三一
FAX 〇三(三七五)三三五〇

法華宗(真門流)総本山
本隆寺

貫首 田中 日生
執事 足立 真正
執事 本多 信正
書記 永岡 悠希
書記 笹木 研吾

〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

日蓮宗大本山
清澄寺

日蓮聖人出家得度之霊跡
別当 中條 令紹
執事 佐々木 光道

〒299-5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話 〇四(七〇九四)〇五二五
FAX 〇四(七〇九四)〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。
一六〇名様まで可。

日蓮宗大本山
中山法華経寺

貫首 新井 日湛
財務執事 村尾 貞榮
庶務執事 滝本 善孝
法務執事 阿部 宇善
教務執事 高谷 正之

〒272-0813 千葉県市川市中山二―一〇―一
電話 〇四七(三三四)三四三三
FAX 〇四七(三三四)一七九六

京都八本山会

大本山 妙顕寺 貫首 南條 日慈
大本山 本願寺 貫首 吉田 日厚
大本山 妙覚寺 貫首 頂岳 日選
大本山 本満寺 貫首 伊丹 日章
大本山 本法寺 貫首 大塚 日行
大本山 立本寺 貫首 上田 日瑞
大本山 妙傳寺 貫首 野々垣 日祐
本山 頂妙寺 貫首 安藤 日瑛

法華宗(本門流)大本山
鷲山寺

貫首 大塚 日正
執事 高橋 洋山
役員一同

〒297-0051 千葉県茂原市鷲巢四八八
電話 〇四七五(三三)二九七八
FAX 〇四七五(三三)三〇三八

本門法華宗大本山
妙蓮寺

貫首 松下 日肆
執事 音羽 隆全
役員一同

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五二)三五二七
FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗祖御降誕霊場
日蓮宗大本山
誕生寺

宗祖御降誕八百年に向かつての祈り
貫首 石川 日命
執事 村田 教清

〒299-5501 千葉県鴨川市小湊一八三
電話 〇四(七〇九五)二六二一
FAX 〇四(七〇九五)二〇五五

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺

山主 嶋田 日新

〒166-0013 東京都杉並区堀之内三一四八―八
電話 〇三(三三三)六二四一
FAX 〇三(三三三)五〇〇七

徳川家康公報恩創建
日蓮宗由緒寺院
瑞輪寺

除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安
貫首 井上 日修

〒110-0001 東京都台東区谷中四―二―一五
電話 〇三(三八二)四三七三
FAX 〇三(三八二)七〇三三

顕本法華宗総本山
妙満寺

貫首 中村 日玄
執事 古瀬 久馨
執事 山本 晃道
執事 中村 英司
執事 湯原 正純
執事 小川 正義

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

多寶富士山
日蓮宗本山
本山要法寺

貫首 嘉儀 日有
大學 丹治 日遠
執事 原 光承
執事 原 長秀
執事 原 智要
執事 原 田光
執事 原 光明

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七二)三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四

日蓮宗霊跡本山 比企谷
妙本寺

貫首 早水 日秀
執事 立野 正泰
山務役員一同

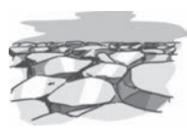
〒248-0007 鎌倉市大町一―一五―一
電話 〇四六七(二二)〇七七七
FAX 〇四六七(二五)六九六七

日蓮宗本山
頂妙寺

貫首 安藤 信行
参与 伊東 隆司
執事 宇根 海静
執事 藤井 照源
執事 二之部 知孝
同 川合 陽雄

〒606-8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七二)〇五六二
FAX 〇七五(七五二)一〇〇四

平成三十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



平成二十二年一月現在

門連時報

京都理事会開催さる

平成二十一年十一月二十四日

(火)、日蓮宗本山妙覺寺で、「日蓮聖人門下連合理事会及び京都門下連合会との懇談会」が開催され、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・京都連合会代表・大阪門下懇話会代表、並びに京都門下連合会役員など計六〇名が参加した。

正午に集合し、昼食。午後一時より頂岳日蓮貫首猊下御導師のもと法味言上、記念撮影。続き、午後二時より本堂にて頂岳日蓮貫首猊下より妙覺寺治事を拝聴した。

午後三時、理事会開催。小松淨慎理事長が座長となり議題に



平成21年11月24日 日蓮聖人門下連合会 京都理事会 於：本山妙覺寺

沿って議事を進行。上半期事業報告を事務局より報告。続き、京都門下連合会藤井照源理事長より京門連活動及び「日蓮と法華の名宝」日蓮聖人展のラジオでの広報など報告及び大阪門下懇話会中村日遊理事長より地方

日蓮と法華の名宝〜華びらく〜京都町衆文化〜 大成功

立正安国論奏進七五〇年を記念し、宗門運動の柱でもある『日蓮と法華の名宝』が四十五日間の開催を経て幕を閉じた。

開催中の観覧者数は『八八〇〇〇人』であり、当初の目標から言えば大成功であった。事業企画のスタートは大変難しく困難な壁にぶつかりながらも、多くの議論の積み重ねが実を結び十月十日出発した。

開催当日、入場時間には一五〇人以上の行列が出来る程上々のスタートであった。日蓮聖人が命をかけて国家諫

暁し、正しき生き方を示された国宝『立正安国論』は常に人だかりで、手を合わす人々も多く見られた。『立正安国論』は展示物では無く、日蓮聖人の命の財産であることが伺われる。京都・本山妙覺寺蔵の日蓮聖人座像は初公開で、一四世紀前半に活躍した仏師法印院興の作で貴重な座像である。

参拝者が自然と合唱礼拝する姿に感動を覚えた。この日蓮聖人展の調査において又新発見された、顕本法華宗・総本山妙満寺蔵の高麗仏画「彌勒下生変相図」はちぎり家からの寄贈で、町衆の存在感を深く表していた。

約二〇〇点の内容を振り返れ

門連活動が報告された。

次に、「日蓮と法華の名宝」展担当より展覧会報告がなされ、開催期間四十一日で入場者数が概算八万人に及んだことが報告された。また、駅・新聞・雑誌等、多くの場所で広報宣伝を目

にし、多岐にわたる展覧会円成の活動がなされていたことが知り得たとの意見があった。午後四時閉会。会場を全日空ホテルに移し、午後五時半より懇親会を開催、会員相互の親睦を深めた。

ば『日蓮聖人展』の意義が間違いないと、重く、深いものであったことが位置付けられる。立正安国論奏進七五〇年の機縁を得たことはまさしく「時のしからしむるのみ」である。

そして、本阿弥光悦、尾形光琳、長谷川等伯、俵屋宗達等の熱烈的な法華信者の法華の文化・芸術が町衆の力として法華信仰を支えていった。その作品が展示されたことも大成功の要因となつている。更に「日蓮聖人展」が京都で開催される意義は日蓮上人の京都弘通に始まり今日に至るまで十六本山を中心とした

日蓮諸宗にも大きな光を輝かせた。日蓮聖人展のみならず京洛の十六本山を中心とした日蓮諸宗への参拝や日蓮聖人近畿御遊学の霊地比叡山横川定光院への護持顕彰参拝は多くの人々の共感を呼んだ。この「日蓮聖人展」の大成功の状況を深く受け止め更に伝道教化に邁進していかねばならない。それが日蓮聖人への御報恩であり、「立正安国論」奏進七五〇年記念の意義である。(藤井照源)

▼人事(事務局への連絡日を含む)

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二・八・二二	永田日洵	日蓮宗 京都門下連合会	理事 顧問		
平成二・九・九	竹内正道 寺田完英	法華宗真門流	常任理事	就任	退任
平成二・九・九	上田浩岳 堀 智泰	法華宗真門流	理事	就任	退任
平成二・一〇・二三	加藤乗安 川手誠誓	本門佛立流	常任理事	就任	退任
平成二・一一・二三	大塚日正 石田日信	法華宗本門流	顧問	就任	退任
平成二・一二・二〇	原井慈鳳 二瓶海照	法華宗本門流	常任理事	就任	退任

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔・・・

宗門唯一の
伝道紙

日蓮宗新聞

毎月1日・10日・20日
年間購読 **3,600円** (送料込)

教誌 正法

年4回発行 年間購読 **1,700円** (送料込)
一冊350円 (送料別)

お正月(1月号) 春季彼岸(3月号) お盆(7月号) お彼岸・お会式(9月号)

お申込みは 日蓮宗新聞社まで 〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3 電話03-3755-5271 FAX03-3753-7028

各派・教団・短信

日蓮聖人御導師のもと、奉修された。法要後、本堂前の天水受を寄贈され...

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

刊行された。本号は、大平宏龍所長以下九編の論文を掲載し、また十一号より二十号までの総目録並編集者別目録が纏められ今後の研究への活用が期待される。お問い合わせは、宗務院(〇三五六・四一三〇五五)まで。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

いを見せた。(吉本栄昶) 八月二十一日、法華宗陣門流 布教誌「宝塔」編集会議が開催された。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

同日十一月十三日、貸し出され所在不明になっていた、「開迹顕本妙法蓮華經直談抄」が本門佛立宗本山有清寺より帰還した。この『妙経直談抄』は常住院日蓮聖人が著され、金剛院日承上人が所持された写本。

日蓮聖人門下連合会 目的 本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、團結を強化することを目的とする。 事業 本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。 1、祖廟護持の組織強化 2、教育事業の提携 3、布教の連合強化 4、懇談会・研究会・講演会等の開催 5、各種出版物の刊行 6、海外布教の提携及び交流 7、対外的な各種の運動 8、その他 ●加盟団体 日蓮宗 法華宗本門流 顕本法華宗 法華宗陣門流 本門佛立宗 日蓮本宗 法華宗真門流 本門法華宗 国柱会 日本山妙法寺 京都門下連合会